

自己点検・自己評価の概要

1. 教育目標

1) アクティブラーニングができる授業づくりを推進する。

(1) 新カリキュラムに位置づけた科目「学びの基本」を基盤にした授業を展開する。

① イメージ図を基に、全教職員で「学びの基本」と各看護学領域との関連性を共有する。

② 科目「学びの基本」の定着を図るため、各看護学領域において、「学びの基本」の内容を授業実践に活かし、授業改善につなげる。

(2) ミニ授業研究会の充実を図る。

① 授業実践報告会を看護学領域ごとに1例実践する。

② 全員参加を促すために勤務時間内に実施する。

(3) 臨地実習施設と協同して看護基礎教育に係るビジュアル教材の開発を行う。

・ 臨床判断力の基礎を養うための教材開発を実習病院と協同して行う。

2) 地域（病院等）と連携した看護基礎教育を推進する。

(1) 実習協議会の活性化

・ 前年度の実習評価を報告するだけでなく、学生の評価結果から課題を提案し、課題解決に向けての協議の場とする。臨床現場とのディスカッションを通して学校と臨床現場がより密接な関係が創れるようにする。

(2) 臨地実習施設との双方向での人事交流を行う。

① 看護教育研修生として、3か月～1年の間、実習施設の指導者を受け入れる。

② 本校主催の研修会に実習施設の指導者の参加を勧める。

③ 研修報告会を定例で行い、双方の交流を深める。

(3) 浦添市と連携した看護基礎教育を行う。

① 浦添市まちづくり生涯学習推進協議会に学生を委員として派遣する。

② 浦西中学校区コミュニティづくり推進委員会に教員を委員として派遣する。

③ 浦西中学校区の各自治会活動に学生が参加できる教育プログラムを創設する。

(4) 学生のボランティア活動を教育的視点から推進する。

① 地域の人々の生活を理解する。

② コミュニケーション能力を育成する。

3) 入学後の学習活動に活かせる「入学前学修」を実施する。

(1) 科目「学びの基本」への導入として浦添看護学校の教育目的・目標を説明し、学び方（アクティブラーニング）を体験する。

(2) 高大接続の観点から高校生を対象としたミニ講義を実施し、実施後の評価を行う。

4) 看護基礎教育における ICT の活用を推進する。

(1) 実習施設のオリエンテーションをオンラインで実施する。

(2) 実習開始前における施設との打ち合わせをオンラインで実施する。

(3) グーグルフォームで学生による授業評価を実施する。

(4) 学校から学生への連絡事項を専用のアカウントで一斉メールする。

(5) eラーニングを取り入れた授業を試行する。

- (6) ICT を活用した学内広報活動を充実・強化する。
- 5) 評価計画書の作成・実施について検討する。
- 6) FD 活動の推進
 - (1) FD を学内委員会に位置づける。
 - (2) 湘央学園浦添看護学校 FD 活動としてのマニュアル作成をする。
 - ① 本校における看護教員研修体系の見直し・維持
 - ② 研修報告会の企画・運営
 - ③ ミニ授業研究会の企画・運営
 - ④ 新任教員研修会の企画・運営
 - ⑤ 教員相互の授業参観の実施
 - ⑥ 研修報告会の企画・実施

2. 財政体質の安定化

- 1) 収支を見極めた予算計画を立て、計画に基づいた執行をする。
 - (1) 予算確保及びその執行について教職員の理解を得る。
- 2) 財源確保に向けた取り組みを推進する。
 - (1) 退学者、休学者の増加を抑える。
 - ① 学習困難者に対する学習支援を継続する。
 - ② 個人及び保証人を含めた面談を随時実施し、学習困難の元になっていることの実事を双方で共有し、解決方法を模索する。
 - (2) キャリア支援チームによる学生支援を継続する。
 - ① 就職活動の支援（小論及び就職面接指導、県内の医療施設の紹介等）
 - ② 再試験対象者への継続的な個別指導を実施する。
 - (3) スクールカウンセラーの活用を推進する。
 - ・ 学生への周知方法を工夫する。
 - (4) 受験生の確保を推進する。
 - ① オープンキャンパスを年 2 回実施する。
 - ② 高校生等の学校訪問を随時受付、対応する。
 - ③ 高校と連携した看護に関するミニ授業を行う。
 - ④ 学内広報委員会の活動を推進する。

3. 組織構造の改善

- 1) 効率的な学校運営を推進する。
 - (1) 管理者会議、教務調整会議、領域リーダー会、学年リーダー会を組織化し、連絡調整を密にする。
 - (2) 校務分掌の見直し・具体化を図り、教員が身近なものとして認識できるようにする。
 - (3) 新人事評価に基づき各教職員を支援する体制を強化する。
 - (4) 安定的な教員確保のため、実習施設との「教育研修制度」を充実・強化する。
- 2) 教職員の同僚性（協同）を推進する。

- (1)実践研究授業（授業参観→授業の振り返り→授業改善）を実施する。
- (2)FD 委員会を設置し、FD 活動を通して教員同士が学び合う風土の醸成を図る。
- 3)新人事評価制度の導入
 - (1)教職員への趣旨説明を行う。
 - (2)制度の活用を共通理解する。
 - (3)運用を評価する。
- 4)ワークライフ・バランスを推進する。
 - (1)通常業務において何が業務を圧迫しているのかを各自把握する。
 - (2)自己の時間管理を徹底する。
 - (3)情報伝達の効率化として諸連絡事項は Web 活用で行う。
 - (4)有給休暇の計画的取得を推進する。
 - (5)諸会議が時間内で終われるよう、資料等の事前配布を徹底する。

3. 各評価指標の概要

指標 I：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

- 課題：1) 18 歳人口が年々減少していく中で、看護師を目指す若者を定員数確保することは、今後一層厳しくなることが予測される。看護師を目指す若者に選ばれる学校を目指して、専門学校としての本校の教育の特徴を具体的に広報する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を踏まえた 効率的学校運営と社会のニーズを踏まえた学校の将来構想および臨床現場との緊密な関係性の中で、今後の教育の在り方の検討を継続していく。
- 3) 保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

改善策：①課題 1) について

- 1) 課題 1) について
 - (1) 入学前学修を充実・強化し、その成果を評価し広報する。
 - (2) 公開授業の推進
- 2) 課題 2) について
 - (1) 学内において、今後の教育の在り方を検討する機会を設ける。・・・運営会議の定例化
- 3) 課題 3) について
 - (1) 後援会総会時に建学の理念及び教育目的の説明を行うと同時に、教育現場が抱える課題を共有する。

(2) 年1回程度の情報交換会をオンラインで行う。

特記事項

なし

指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	3
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4

課題：1) 地域に根づく看護学校としての情報発信を推進する。

2) ICTに関わる技術職員の確保が必要である。

改善策：1) 課題1) について

(1) 浦添市、浦添市8自治会、JICA 沖縄国際センター、実習施設である中規模病院等との連携を深める。

(2) 地域活動への教職員の積極的な参加を推進する。

(3) 学生のボランティア活動と各看護学教科目との連携を検討する。

2) 課題2) について

(1) 法人本部との調整

特記事項

1) 浦添市生涯学習推進協議会への学生派遣ができた。

2) 浦西中学校区コミュニティづくり推進委員会への職員派遣

3) 実習施設との連携強化が図れた。

指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、	4

カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題：1) 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針などについて

2022年度の第5次看護基礎教育のカリキュラム改正に伴い、教育課程の編成を行った。

2023年度は新カリキュラムと旧カリキュラムを並行して進めるため、煩雑なカリキュラム運営が実施された。実施方針を明確にしながら学生に十分な説明と理解を確認しながら運営していくことが課題である。

2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保について

(1) 実技科目の授業内容

時間割が5校時までであり、空き時間を利用した技術練習において実習室使用の重なりがある。技術練習や技術テストについて実習室使用の工夫、支援方法が課題である。

(2) 教育方法の工夫や開発などについて

臨床現場と協働して教材づくりを実施しているが、継続できるための体制づくりが課題である。

(3) 「健康支援を知る実習」について、多くの実習施設の確保と調整が課題である。

3) 授業評価の実施・評価体制について

(1) 実習評価はルーブリック評価で体系化できたが、評価項目や評価基準の妥当性などの見直しは継続検討する。

(2) 授業評価アンケート調査の学生への周知と実施

(3) 評価結果の活用方法

授業評価結果をデータ化し、授業改善に活かしていくことが必要である。

改善策：課題1)について

(1) 教育理念を踏まえ引き続き教育内容の検討を継続的に行う。

(2) 教育内容の説明と周知

課題2)について

(1) 各専門領域の科目内容や指導方法の現状と課題についての検討を行い、効果的な学修方法を実践していく。

技術到達度に応じた練習時間の十分な確保、臨地実習で自信をもって体験できるように看護実践を支援する。

(2) 臨床現場と協働して教材づくりを継続できるための教育内容の情報交換や体制づくり

TAによる教育効果を評価し派遣元との連携の方法を制度化する。

課題3)について

- (1) 実習評価内容の継続検討、評価指針について検討する。
- (2) テキストマイニングの研修会は開始できたが、今後ミニ授業研究会などを継続して実施し効果的な授業評価に活用していく。
- (3) FD活動の一環として授業改善を進める。

特記事項

- 1) 教科目外の特別講演や特別講義が実施できた。
- 2) 沖縄県骨髄バンク登録推進講演会後多くの学生が骨髄バンクの登録を行った
- 3) 教育方法の工夫として「看図アプローチ」の教材づくりを通して臨床現場との連携が強化できた。
- 4) 健康支援を知る実習など新カリキュラムの実習で多くの実習施設との連携がとれた

指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	3
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

課題：1) 退学者・休学者のほとんどが「メンタル面の問題」「学習への不安」「経済的問題」などを抱えている。

2) 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価と卒業後のキャリア形成への効果の把握について今後、検討を要する。

3) 退学理由は主に「進路変更」であり、休学理由は「学習への不安」「単位未履修」などである。学習への取り組みについてさらに個別的に支援する必要がある。

4) 看護師国家試験につながる学習方法を1年次から段階的に計画する必要がある。

改善策：課題1) について

(1) 成績が低迷している学生や指導が難しい学生の対応について教員がコーチングスキルを身に付けるための研修会を実施する。

課題2) について

(1) 卒業生の就業先での就業状況を把握し、看護基礎教育での課題を明確にしていく。

(2) 同窓会と連携して卒業後のキャリア調査を実施し、キャリア形成の状況を把握する。

課題3) に対して

(1) キャリア教育の充実

看護職としてキャリアを積むことの意義を理解するために、看護協会や認定看護師などによる講演会の計画をする。学習支援を個別・若しくはグループ単位で継続的に実施、学習支援を強化する

課題4) に対して

国試対策の3年間の計画を立案し、学年の達成目標を共有する。

特記事項

1) 国家試験対策が充実している

(1) 資格取得については、国家試験対策委員会が設置されており、各学年担当の意識も高く、1年次から計画的に学習できるような環境を整えている。

(2) 国家試験対策関連業者と連携をしながら成績を評価分析し、学習状況について個別面談を実施してい

- る。また学年担当教員を中心に個別指導を徹底している。
- (3) 国家試験合格の状況分析を行い、次年度の教育計画に生かしている。
- (4) 後援会からの経済的支援がある。
- (5) 2022年4月より民法が改正され成人年齢が引き下げられたことに伴い、自己決定や種々の契約が1人でできるようになるため正しく判断できるための成人教育が必要であることを2022年度の課題に挙げていたが、2023年度は、外部業者に依頼し「金融トラブル・カードの契約について」の講座を開催した。

指標V：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	3
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

- 課題：1) 生徒の健康管理を担う組織体制について、メンタルの問題を抱える学生が多くなっている。
- 2) 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備については、学習する上での課題について把握が必要である。
- 3) 他の専門学校と連携した教育の検討が必要である。
- 4) 学生の安全管理のための取り組み等の中の発達障害のある学生への支援に困難を感じているが支援体制が構築されていない。

改善策：課題1) について

- ・学生が、メンタル不調時早期に相談ができ、症状増悪を予防することができるよう教職員が初期の相談に対応できるようにメンタルサポートの研修会を開催する。

課題2) につて

- ・社会人学生の学業継続や学習困難状況の実態を把握し、課題を明確にして対策を立案し取り組む。
- ・奨学金貸与学生の実態を把握する。（学生が直接契約している病院等の奨学金の利用状況）

課題3) について

- ・成績が低迷している学生や指導が難しい学生に対する対応についてコーチングなどの知識・スキルを教員が学ぶための学習会を実施する。
- ・2024年4月より障害のある人への合理的配慮が義務化されたことにより支援体制を構築し、マニュアルを作成する必要がある。

特記事項

- 1) 健康診断の結果を踏まえた保健指導については、2018年度から各自が健康目標管理シート活用で健康管理行動に取り組むようになった。
- 2) 学生のニーズに迅速に対応するためスクールカウンセラーは2名体制である。

指標Ⅵ：教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

課題：1) 施設整備について

- (1) 実習室の設備更新時期となる箇所がある。

2) 環境整備について

- (1) 2・3年生の清掃用具の不足や劣化があった。
- (2) 各クラスの物品（黒板消し、マジックなど）の管理ができていない。
- (3) 定期的な清掃チェックができていない。
- (4) 教室が整備されていない。物が散乱しているなどの理由で、机間巡視やグループワークに支障があるなどの苦言が寄せられた。
- (5) 合同教室の清掃が不十分である。各クラスで授業が終わる時間が異なるため、他のクラスが授業で使用している場合は清掃することができないことがある。
- (6) 台風が接近の際、飛来物により二階ベランダの排水口が塞がり浸水被害が発生した。
- (7) トイレ掃除は実習などで不在になると清掃が行き届かず、教員もサポートして清掃をする必要があった。特に3階トイレは2・3年生が合同で使用するため当番学生の負担が大きく、清掃せずに帰ってしまう学生もおり特定の学生が難渋させられる事態となった。
- (8) 学生倉庫の使い方が悪く、学年を跨いで使用していることで指導が十分にできない。
- (9) ワックスがけがホコリや髪の毛の上から行われていた。

改善策：課題1) について

- (1) 年度計画をもって更新を行う。

課題2) について

- (1) 定期的に用具確認を行い必要な物は補充する。
- (2) 学生指導を徹底、美化委員への呼びかけを定期的におこなう。
- (3) 学生指導を徹底、美化委員への呼びかけを定期的におこなう。
- (4) 学生指導を徹底、美化委員への呼びかけを定期的におこなう。
- (5) 清掃マニュアルを各クラスに1部配布するようにしているが、美化委員以外の学生への周知方法も検討していく。清掃担当・チェック表を作成し、各清掃エリアに環境美化委員をチェック係として指名する。クラス内の清掃分担等を環境美化委員にまかせ、クラスメイトへの清掃指示や監督をすることで、環境美化委員一人ひとりに責任を持たせ行き届いた清掃を行う。
- (6) 西側排水溝付近にオーバーフローした際の緊急排水口を設置した。また定期的に排水口の点検 清掃を行い、特に台風シーズン及び、台風接近が予測される際には各所確認する。
- (7) トイレ掃除は学生への負担が多くなる面もあるため、業者へ依頼できないか検討する。
- (8) ワックスがけ前の清掃状況を確認する。

特記事項

- 1) 全館 Wi-Fi 設備を完備している。
- 2) 劣化が見られる配管などの設備更新を行った。
- 3) 実習室整備係が主体的に消耗品などのチェックの役割を担っている。
- 4) 教室の PC 環境を接続が可能な Wi-Fi 機器へ変更した。
- 5) 1 年生の環境美化委員に、清掃用具の不足があるか確認し補充することが出来た。
- 6) 各学年教室付近に掲示板を設置した。
- 7) 実習室の乾燥機や洗濯機を整備した。

指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	3
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題：1) 入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、雇用情勢の上向き等により、既卒者の受験者数が減少傾向にあるため、高校生の受験者数を増やすための工夫が必要である。また、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に努めていく必要がある。

さらに、情報社会において入学希望者へ適切に情報提供を行えるよう、ホームページや SNS 等の Web 媒体を活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

改善策：課題1) について

入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させ、その内容を Web 媒体に反映し入学希望者が必要とする情報を詳細に希望に沿って伝えていく。また、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え入学希望者が求める情報を適切に把握し、入学希望者へ提供していく。

特記事項

- 1) 湘中央学園全体のオープンキャンパス及び浦添看護学校独自のオープンキャンパスを実施した。予約制で定員を設けることにより、早期の参加者の獲得及び参加者の人数を把握することで、よりよい情報提供並びに運営を行うことができ、今後のオープンキャンパスを実施するにあたり、良い実績を作ることができた。

指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4

4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4
------------------------	---

課題：今後の物価高、電気料金高騰、人件費増などを予測し収入増が必要と考える。

改善策：学納金等の見直しを行い、収支バランスを図りながら運営を行う。

特記事項

職員が無駄な支出を抑え質の高い教育を提供できるように一丸となって取り組んでいる。

指標Ⅸ： 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	3
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題：1) 新カリキュラムと旧カリキュラムが同時進行中である。

2) 個人情報保護に関しては教職員共に認識を新たにすることがある。

対応策：課題1) について

- ・旧カリキュラムを履修する学生が休学する際、復学時に履修科目の振り替えに留意する。

課題2) について

- ・個人情報保護に係るインシデント発生時にはその都度、丁寧に説明を繰り返す。

特記事項

なし

指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題：2022年度から各地のイベント活動が再開し、それに伴って2023年度のボランティア募集も増えてきた。学生もボランティアへの参加は積極的であり、複数のボランティア活動に参加する学生も見られた。

学生にとってボランティア活動は教科目だけでは達成できない体験や学びの機会であるため、今後も感染対策を行いながら積極的にボランティア活動を推進していく。

資源回収品による地域貢献を推進していく必要があるが、2023年度も実施できていない。

改善策：関係団体や実習施設へボランティア活動の状況を伝え、依頼を増やし学生が興味のあるボランティアへの参加を促す。

また、ボランティアの形態として「資源回収品による地域貢献」の方法を検討していく。例えば、ボランティア部など中心となる部を立ち上げ企画・運営を行うようにする。学生のイメージしやすい持続可能な開発目標 SDGs の達成に向けた取り組みにもつながると考えている。

特記事項

- ①浦西中学校区「コミュニティづくり推進委員」のメンバーとして1名の教員が参加している。
- ②2022年度からの「コミュニティづくり推進委員」の活動から地域の自治会の高齢者と交流を持つことができた。このことをきっかけに老年看護学実習において高齢者との交流ができ、老年期の対象理解につなげることができた。
- ③浦添市まちづくり生涯学習推進協議会への本校学生の参加は2018年度から始まり現在に至っている。任期は2年であることから2023年度の学生は4人目になる。浦添市に住む若者代表として看護学生の立場から生涯学習について内容や場づくりに関して情報を発信している。
- ④学びフェスタ浦添において地域で暮らす子どもから大人まで正しい手洗いと消毒方法などへの関心が高まり、感染予防に取り組むことができた。手洗いチェッカーの結果に子どもたちは、興味津々で手洗いの大切さを学べる場となった。
- ⑤新カリキュラムによる「健康支援を知る実習」において新たな実習施設となったところから学生の実習への取り組み状況が評価され、ボランティア活動の依頼がきた。

指標XI：国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 留学生の受け入れ・派遣について戦力をもって国際交流を行っているか	3
2) 受け入れ派遣等において適切な手続きが等がとられているか。	3
1) 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	3
2) 学内での適切な体制が整備されているか。	3

課題：新カリキュラムでは、英語や韓国語、中国語など選択必修科目を導入した。

沖縄にいる外国人との国際交流の場を広げる。

また、授業科目「国際看護」の学習の一環で行っている「沖縄にいる外国人へのインタビュー」のまとめは、広く市民へ広報することで国際交流の一助を担うことになると考え、広報の方法を検討していく。

改善策：昨年度と同様に留学生への受け入れについては、法的規制を順守することが困難な状況があり、現時点では時期尚早と考える。

ICTを用いて学生が国際交流できるよう整えていく。

特記事項

国際交流に関して、地域の特色を活かした学習活動ができています。

出前講座/研修員出前講座プログラムを通して、研修員へ学生自身の看護師になりたい理由について伝えることで学生の看護師になろうという自覚が強まる機会になった。また、交流を通して研修員たちの母国において医療を目指す人々の向上につながってほしい。日本以外の医療分野の現状について看護学生として関心

をしめす機会となった。

指標Ⅶ：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	3
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	3

課題：1) 地域の方々とのコミュニケーション積極的に取る場を設ける必要がある。

2) オンライン保護者会の参加者を増やす工夫が必要である。

改善策：課題1) について

- (1) 地域に学生の活動を説明し、受け入れてくれる場を積極的に活用する。
- (2) 夏期休暇期間中に学生が参加できる正課外カリキュラムを検討し、実施する。
- (3) 浦添市内自治会を訪問し、教育機関との連携・体制づくりを促進する。

2) 課題2) について

オンライン保護者会の際、学校の現状説明だけでなく、30分程度のミニ講座を入れ、看護師教育について、保護者の関心を喚起する。

特記事項

なし